ボタニカルオイル使用の クレンジングに適した活性剤

植物油を用いた処方でも自由自在な組み合わせを

◆トレンドに沿って様々な**コンセプト**のクレンジングが登場

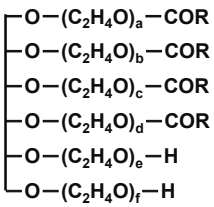
◆コンセプトを伝える上では**油剤の選択**が重要

油剤の分類	メイク落ち	コスト	肌へのやさしさ
炭化水素油系	◎	◎	△
エステル油系	○	○	○
植物油系	○	△	◎

⇒通常は複数の乳化剤を使用してのHLB調整が必要

レオドール 430V

油剤リッチ処方に最適な乳化・可溶化剤



化粧品表示名称　：
テトラオレイン酸ソルベス-30
INCI　：
SORBETH-30 TETRAOLEATE

HLB　：10.5
外原規：　あり　　中文INCI：　あり

R = $C_{17}H_{33}$　a+b+c+d+e+f = 30

多様な油剤との相溶性に優れるため
簡便で自由自在な組み合わせ
が可能となる活性剤のご提案

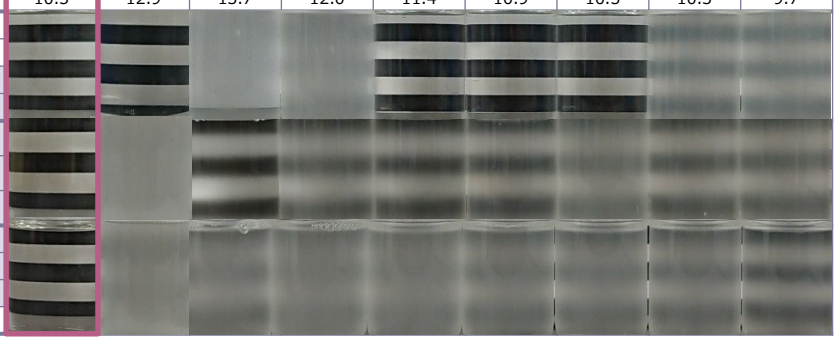
①単一油剤に対する相溶性比較

各種界面活性剤と各油剤を1:9、2:8の2通りの割合で混合し、撹拌した後の外観を評価。透明溶解している場合は○、濁りが発生した場合はxとした。

		レオドール 430V		イソステアリン酸 PEG-8グリセリル		ラウリン酸 PEG-12		イソステアリン酸 ポリグリセリル-2		PEG-25 水添ヒマシ油	
		HLB: 10.5		HLB: 12.9		HLB: 13.7		HLB: 8.0		HLB: 10.7	
	界面活性剤：油剤比	1:9	2:8	1:9	2:8	1:9	2:8	1:9	2:8	1:9	2:8
炭化水素油	イソドデカン	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	流動パラフィン	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×
エステル油	イソステアリン酸イソプロピル	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○
	エチルヘキサン酸セチル	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○
植物油	オリーブ油	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	コメヌカ油	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×

②混合油剤に対する相溶性比較

極性油リッチ処方も一剤で簡便に調製可能です

HLB値の異なる界面活性剤を各比率で混合してHLB値を調整したもの（ラウリン酸PEG-12 ＋ イソステアリン酸グリセリル-2）と1剤の界面活性剤（レオドール 430V、イソステアリン酸PEG-8グリセリル）を使用し、油剤：界面活性剤＝8：2 の比率で混合した後の外観を評価した。

評価モデル油剤	成分	濃度＼HLB	レオドール 430V	イソステアリン酸 PEG-8グリセリル	ラウリン酸PEG-12：イソステアリン酸グリセリル-2 混合でHLB調整（以下混合比）						
					10:0	7:3	6:4	5:5	44:56	4:6	3:7
			10.5	12.9	13.7	12.0	11.4	10.9	10.5	10.3	9.7
油剤① 非極性油リッチ	イソドデカン	40%									
	水添イソブテン	20%									
	エチルヘキサン酸セチル	10%									
	オリーブ油	10%									
油剤② 極性油リッチ	オリーブ油	30%									
	エチルヘキサン酸セチル	30%									
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	20%									
油剤③ 極性油リッチ ＋ 環状シリコーン	オリーブ油	30%									
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	25%									
	エチルヘキサン酸セチル	20%									
	環状シリコーン	5%